



平成28年5月26日

富山市長 森 雅 志 様

富山市総合計画審議会
会長 高木 繁 雄



第2次富山市総合計画基本構想（案）について（答申）

平成28年3月22日付け企第73号で諮問のありました第2次富山市総合
計画基本構想（案）について、当審議会の意見は別紙のとおりです。

第2次富山市総合計画基本構想（案）について

答 申

I 審議にあたって

富山市では、平成17年4月の市町村合併から10年余りが経過しました。この間、市が取り組んできたまちづくりの成果をさらに発展させ、まちづくりの熟度を高めることが求められています。

第2次富山市総合計画は、今後の富山市のまちづくりにおける長期的かつ基本的な方向を示し、県都として、また、魅力ある総合力の高い日本海側有数の中核都市として発展を遂げていくため、市民と行政が協働で取り組む目標を定め、これらを実現していくための指針となるものです。

今回諮問を受けた基本構想（案）は、急速に進む少子高齢化や人口減少社会にある中で、安心して子育てができ、また、いくつになっても、生き生きと自立して暮らせる地域社会を目指すとともに、豊かな自然と高度な都市機能を併せ持つ富山市を将来市民に引き継いでいくため、今後10年間の本市のまちづくりの方向性を定めるものです。

審議会では、人材・暮らし部会、都市・環境部会、活力・交流部会、協働・連携部会、調整部会の5つの部会を設置し、富山市の現状と課題とともに、基本理念、都市像、基本目標、都市構造、施策の大綱について審議を行いました。

II 審議結果

基本構想（案）の基本理念「安らぎ・誇り・希望・躍動」では、人・まち・自然の共生から「安らぎ」を広げ、広域的で多様な交流から「誇り」を育み、新しい活力と魅力の創造から「希望」を未来につなげ、これらの相乗効果を活かして、これまで以上に富山市が「躍動」することとされています。

また、前計画での都市像「人・まち・自然が調和する活力都市とやま」を継承し、引き続き、賑やかな都市部と自然豊かな山間部など、それぞれが持つ個性を大切にしつつ、産業や文化などにおける企業や市民の活動が活発で、躍動している都市を目指すこととされています。

こうした基本理念及び都市像というものは、今後、まちの総合力を一段と高めるための市民と行政が協働で取り組む目標、そしてその目標実現のための指針として、ふさわしいものであり、次期富山市総合計画基本構想として適切な内容であると考えます。

さて、富山市が推進してきた「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」や環境モデル都市、環境未来都市としての取り組みが、近年、国内はもとより、OECDや国際連合、ロックフェラー財団など、さまざまな機関から高く評価されており、さらに本年5月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）の開催に併せて、富山市でG7環境大臣会合が開催され、富山市民としての誇りや自信を高める大きな契機となったことは大変喜ばしいことであります。今後とも富山市の取り組みが、国内外から高い注目を集められるよう、そして、成果として大きく実を結ぶよう、以下の事項についても十分踏まえながら、富山市の強みや魅力を活かし、積極的な施策の展開に努められることを大いに期待します。

1 総括的事項

(少子高齢化と人口減少への対応について)

急速な少子高齢化に伴う人口減少により、富山市においても、地域経済は伸び悩んでおり、今後、本市が持続可能な都市として発展していくためには、少子化対策と高齢者施策をバランスよく展開していくことが必要である。高齢化が進む中で、高齢者一人ひとりが健康で前向きに、活躍できる場の創出に努められたい。また、少子化については、若者に富山に住みたい（住み続けたい、富山に戻って暮らしたい）、富山で働きたい、子どもを育てたいと思ってもらえるよう、ふるさと教育の充実や子育て支援体制の強化に努められたい。

(コンパクトシティ政策と中山間地の振興について)

富山市では、これまで公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりが進められてきたが、中山間地など周辺部では、住民や各種都市機能などがまちの中心部に吸収されるのではと懸念されてきた。コンパクトなまちづくりの骨格をなすのが、公共交通を軸とする「団子と串」のまちづくりであり、このことについて今後とも、広く市民の理解が得られるよう努められたい。また、まちの中心部は大きく変わりつつあるが、中山間地の振興も大切であり、超高齢化の集落やいわゆる「限界集落」における生活支援体制にも引き続き配慮されたい。

(富山市の魅力や強みを活かした展開について)

富山市は、日本海側有数の中核都市として、高次都市機能を有し、製造業などの産業集積を背景とした経済力により就業機会にも恵まれている。

また、豊かな自然環境のもと、豊富で良質な水とさまざまな海の幸、山の幸に恵まれており、台風被害や火災、犯罪が少ないことなど、安全で暮らしやすい土地柄であること、さらには、勤勉で教育に対する意識が高いことなどが魅力であり強みになっている。

特に、昨年北陸新幹線が開業したことに伴い、観光・交流の需要が増えたことから、市民の意識や企業の行動パターンにも変化が感じられる。このような外部環境の変化にも柔軟に対応しながら、富山市の強みをさらに押し進めていくことに努められたい。

(地域の主体としての自覚と誇りについて)

市民の参画がなければ、この計画の実現は難しい。そのため、ワークショップの開催などを通して、市民の主体的な行動意欲を高め、市民としての使命や責務について自覚を促すことが必要である。なかでも地域コミュニティを維持するためには、市民自らが、地域を支える担い手としての自覚と誇りをもち、主体的に行動することが期待される。年代や性別に関係なく、地域に暮らす誰もが、地域から支援を受けるだけでなく、自らも地域に貢献することが重要となる。富山市においても、地域におけるつながりの希薄化や地域活動への参加率の低下が顕在化してきており、特に高齢化と人口減少が顕著な中山間地では自助、互助、共助、公助のバランスのとれた取り組みに努められたい。

2 個別事項

(1) すべての人が輝き安心して暮らせるまち【人材・暮らし】

① すべての世代が学び活躍できるひとづくり

家庭、学校、職場、地域との連携を密にし、地域の人たちと子どもたちがふれあう体験や育児・介護体験等の事業の拡充のほか、アクティブラーニング等の新しい教育についても検討されたい。

また、民間企業などから講師を招くなど、より実践的な教育を実施するよう努められたい。

② いつまでも元気で暮らせる健康づくり

子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民が参加できるスポーツイベントの開催など、体育協会や総合型スポーツクラブなどとも連携し、年間を通してスポーツが楽しめるような環境づくりに努められたい。

また、世界で活躍できるトップアスリートの育成・強化にも努められたい。

③ 誰もが自立し安心して暮らせるまちづくり

少子化を考える場合、男女の出会いの場の創出や希望する数の子どもを産み育てられるように、仕事と家庭の両立支援を推進するとともに、保育料や子どもの教育費に対する支援などに努められたい。

また、高齢者対策として、介護に従事する人の確保、障害のある方の社会参画も進められたい。

(2) 安心・安全で持続性のある魅力的なまち【都市・環境】

① 人にやさしい安心・安全なまちづくり

富山市は、海岸部から山間部までの広大な範囲に多様な地域を有しており、さまざまな自然災害の発生が懸念される箇所も多く存在している。

このため、公共施設の統廃合等の検討の際には、災害拠点機能の確保についても配慮されたい。また、ハード面だけではなく、市民の防災意識の向上などソフト面での対策も進められたい。

②コンパクトなまちづくり

富山市の南北方向については、公共交通の利便性が向上しており、東西方向についても利便性を考慮する必要がある。

また、中心市街地や公共交通の沿線に居住機能や福祉・医療・商業・文化等の都市機能を誘導する公共交通を軸とするコンパクトなまちづくりの推進にあたっては、救急や医療との連携についても十分配慮されたい。

③潤いと安らぎのあるまちづくり

中山間地に居住する市民に対しても、その地域の暮らしを支えるための適正な行政サービスを提供しなければならないことから、都市部や地域の生活拠点地区とその周辺部のバランスに配慮しながらまちづくりを進められたい。

また、過疎化、高齢化の進展に伴い、山の管理の担い手不足などから、森林機能の低下が懸念されているため、林業生産・経営基盤の強化など、森づくりに関する対策に努められたい。

④自然にやさしいまちづくり

海岸部から山間部までにわたる広大で豊かな自然や環境に配慮した取り組みが大切である。

特に、都市部と中山間地が近接していることが富山市の魅力であることから、市民が自然を楽しむことができるようなまちづくりに努められたい。

(3) 人が集い活気にあふれ希望に満ちたまち【活力・交流】

①新たな価値を創出する産業づくり

北陸新幹線の開業により広域交流が活発になる中で、外国人観光客も増加している。薬都とやまとして、薬膳メニューの開発やエゴマの6次産業化など富山市独自の新たな価値を創出する産業づくりに努められたい。

②観光・交流のまちづくり

富山市は、水深1,000mの「海の幸の宝庫」富山湾から標高3,000m級の北アルプス立山連峰までの標高差4,000mの多様な地勢と雄大な自然を誇るとともに、「ものづくりのまち」として医薬品製造をはじめとした産業観光資源にも恵まれている。このような点を強調しながら企業などと連携し、観光・交流のまちづくりを進められたい。

③いきいきと働けるまちづくり

産業の活力を生み出すためには、若者に、富山市で働くことに魅力を感じ、誇りを持ってもらうことが必要である。

このため、地元産業の魅力をさらに磨き、アピールすることや多様な雇用機会の創出、勤労者福祉の向上などを図り、いきいきと働ける雇用環境の整備に努められたい。

④歴史・文化・芸術のまちづくり

富山市は、ガラスをテーマとして、ガラス工芸に携わる人材の育成、産業化の推進、芸術の振興など、さまざまな取り組みを行ってきた。

今後は、富山市中心部で賑わいを創出するイベントや文化的なテーマで国際大会を開催することなどにより、一層、ガラス工芸など富山市の特色ある文化・芸術への関心が高まるよう努められたい。

(4) 共生社会を実現し誇りを大切に作る協働のまち【協働・連携】

①市民協働による共生社会づくり

コミュニティの強化を図るためには、地域内における住民同士のつながりだけでなく、世代や地域を越えた多様な人と人とのつながりの強化も重要である。そのためには、まちづくり会社などとも連携し、情報交換や交流の場の提供など人と人をつなぐさまざまな活動の支援に努められたい。

②市民の誇りづくり

市民一人ひとり並びに各企業・団体が富山市に対して誇りを抱くシビックプライドの醸成を図るためには、何よりもまず、自分が住む地域のことをよく知ることが重要である。例えば、学校や町内会、企業などの交流活動が活発に行われるよう、行政がサポートすることで、誰もが富山市に対して魅力を感じてもらえるようなまちづくりに努められたい。

③しなやかな行政体づくり

高齢化の進行による行政需要が増加する一方、生産年齢人口の減少により財源の縮小が想定されるため、市民や民間の活力を有効に活用し、無駄がなく効率的で柔軟な行政体づくりに向け、不断の改革に努められたい。